

日々はOracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年11月28日月曜日

ロード・バランサを構成しORDSの可用性を確保する(0) - 準備作業

Oracle REST Data Servicesを実行する複数のコンピュート・インスタンスを用意し、ロード・バランサをフロントに配置することによって可用性を確保します。

前提条件

本来であればコンピュート・インスタンスはプライベート・ネットワークに配置すべきですが、プライベート・ネットワークを構成するにはアカウントをアップグレードする必要があります。アップグレードせずに構成手順を確認できるように、コンピュート・インスタンスはパブリック・ネットワークに配置します。

以下の記事に従ってCustomer Managed ORDSを構築済します。本記事に、手順として異なる部分を記載します。

Customer Managed ORDSの構成(1) - インストールと構成

<http://apexugj.blogspot.com/2022/11/customer-managed-ords-1-install.html>

また、ロード・バランサをHTTPS化するために使用するサーバー証明書は、Oracle Cloudの証明書サービスより発行します。プライベートCAの作成は、日本オラクル公式のチュートリアルを参考にしてください。

OCIチュートリアル - Oracle Cloud Infrastructureを使ってみよう

プライベート認証局と証明書の発行

<https://oracle-japan.github.io/ocitutorials/intermediates/certificate/>

Always FreeのデータベースとしてAPEXというインスタンスを作成し、Customer Managed ORDSを動作させるコンピュート・インスタンスとして、**CMORDS1**、**CMORDS2**を作成済みとします。

Customer Managed ORDSの構築での変更点

Customer Managed ORDSはHTTPSではなくHTTPで接続するように構成します。そのため、CertbotのインストールやLet's Encryptを使った証明書の発行は行いません。

firewalldの構成では、ポート8080のみ接続を許可します。

```
firewall-cmd --add-port=8080/tcp
firewall-cmd --runtime-to-permanent
firewall-cmd --reload
firewall-cmd --list-all
```

```
[root@cmords1 ~]# firewall-cmd --add-port=8080/tcp
success
[root@cmords1 ~]# firewall-cmd --runtime-to-permanent
success
[root@cmords1 ~]# firewall-cmd --reload
success
[root@cmords1 ~]# firewall-cmd --list-all
public (active)
  target: default
  icmp-block-inversion: no
  interfaces: enp0s3
  sources:
  services: ssh
  ports: 8080/tcp
  protocols:
  forward: yes
  masquerade: no
  forward-ports:
  source-ports:
  icmp-blocks:
  rich rules:
[root@cmords1 ~]#
```

ORDSを構成する際には**プロトコル**としてHTTP、**HTTPポート**としてデフォルトの**8080**を選択します。

```
Enter a number to select the protocol
[1] HTTP
[2] HTTPS
Choose [1]:
Enter the HTTP port [8080]:
```

構成完了後に起動したORDSを停止し、**/etc/ords/config/global/settings.xml**に以下の一行を追加します。

```
<entry key="security.httpsHeaderCheck">X-Forwarded-Proto: https</entry>
```

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
<comment>Saved on Mon Nov 28 02:15:45 UTC 2022</comment>
<entry key="database.api.enabled">>false</entry>
<entry key="standalone.context.path">/ords</entry>
<entry key="standalone.doc.root">/etc/ords/config/global/doc_root</entry>
<entry key="standalone.http.port">8080</entry>
<entry key="security.httpsHeaderCheck">X-Forwarded-Proto: https</entry>
</properties>
```

ロード・バランサのバックエンドとなるコンピュータ・インスタンスそれぞれで、同じ作業を行います。

以上で事前準備は完了です。

続く

Yuji N. 時刻: 16:00

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.